

学校だより

11月号

港区立白金小学校

発行人 吉野 達雄

令和四年 十一月一日



愛や優しさに溢れる子供たち

校長 吉野 達雄

先日、三年生に「校長先生、秋と言えば何をイメージしますか」と聞かれました。皆さんは何を思い浮かべますか。全校集会で子供たちに話しましたが、忙しい毎日の中であつても身の回りにある自然や生き物、食べ物等から日本の四季を感じることは、皆さんの心を豊かにしてくれることでしょう。晩秋から初冬にかけて、薄手のコートや羽織りたくなるこの季節は、紅葉がきれいな時期ですね。赤や黄色に染まった葉を身にまとう木々を見てみると心が癒やされます。イチヨウ並木を歩くのもお勧めです。この近くでは、青山通りから明治神宮外苑まで続くイチヨウの金色のトンネルがありますのでぜひ家族で行ってみてください。

【豊かな心と愛に溢れています】

図工の学習で三年生は、自分たちの思いを段ボールに絵で表現しようという活動をしています。あるグループは四季の移り変わりを絵で表現する計画を立てていました。他のグループでは、「宇宙」「海」「未来の建物」などをイメージして描いていました。そのような中、「学校」を描いているグループがあり、学校の横には、「日本一の学校、愛であふれる学校」と書いてありました。私の学校経営方針の言葉ですが、子供たちがそのことを意識し、表現していることがとても嬉しかったです。きつとこの子供たちが実現してくれる日も近いのではないのでしょうか。

【子供たちの優しさに愛を感じます】

数名の四年生が、道端にいたイモムシを教室で飼育していました。これは蝶の幼虫ではないようです、サナギになりました、などと度々、校長室にも報告に来てくれていました。その幼虫が残念ながら死んでしまったときに悲しみ、花壇にお墓を作っている姿から小さな命の尊さをしっかり感じていることがわかりました。その子たちは生き物が大好きで、普段も校庭で虫や植物を見つけては観察記を書いています。そういう子たちはきつと友達にも思いやりや優しさをもって接することができるのではないのでしょうか。白金小学校の全員がこのように愛で溢れる子供たちになってほしいです。

「いじめを見逃さない いじめを許さない」

ふれあい（いじめ防止強化）月間

生活指導主任 藪田 真澄

今月は「ふれあい月間（いじめ防止強化月間）」です。本校では、十一月のふれあい月間の取組として、次の三点に取り組みます。

①担任以外の教員がアンケートを取ります。さらに、悩みなどの相談がある場合には、自分が話をしたい先生を選び、SOSを発信しやすいようにします。

②四年生以上は、WebQ（第2回）を実施します。

③自身の行動を振り返り、相手の気持ちを考えられるようにします。

今年度からタブレットを使用した「WebQ」を実施しています。子供たちそれぞれの「困り感」の早期発見や個別の支援、さらに学級集団の状態を把握し「居心地の良いクラス」作りに役立っています。

いじめは、未然防止と早期発見が大切です。どの学級にも起こりうるという危機意識をもち、アンテナを高くして引き続き身を引き締めて参ります。

「持ち物」について

学習に必要な物を持ってきている児童の様子が見られず、集中して学習に取り組むことへの妨げになるばかりでなく、トラブルの原因にもなります。学習に必要な物は持たせないようご家庭でも今一度ご指導の程お願い申し上げます。

「服装」について

コロナウイルス感染防止のため窓を常時開けています。コートやダウンジャケットは室内では脱ぎますので、トレーナーやセーター、カーディガンなど寒暖差に対応できるような服装での登校に御協力をお願いします。



白金小学校
Twitter



学校HPからも
入れます。